

# 「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」 ニュースレター 第03号

協議会事務局（中部地方整備局河川部）  
平成19年1月31日発行

## 【第1回現地ウォッチング結果報告】



- 開催日時：平成19年1月12日（木）13:30～17:00
- 開催場所：名古屋港近郊
- 参加人数：33名（名古屋工業大学大学院の秀島栄三助教授に参加頂きました）

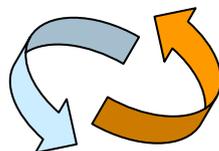


ガスエネルギー館展望室より名古屋港（北西方向）を望む

### ■現地ウォッチングとは？

「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」では、ウォッチング&ミーティングによる検討方式が用いられています。これは、お互いを理解し合い、知識を深め、十分議論し、関係防災機関相互による合意形成を図って危機管理行動計画を策定する試みです。

現地ウォッチングは、これまでの作業部会（ミーティング）において議論の対象となった地域を、協議会メンバーが自らの眼で見て足で歩いて視察することで、スーパー伊勢湾台風による高潮被害をより具体的に想像し、次回以降の作業部会の議論をより活発にすることが目的です。また、メンバー自らが管理施設を紹介し、災害に対する備えをメンバー間で共有・議論することも重要な目的のひとつです。

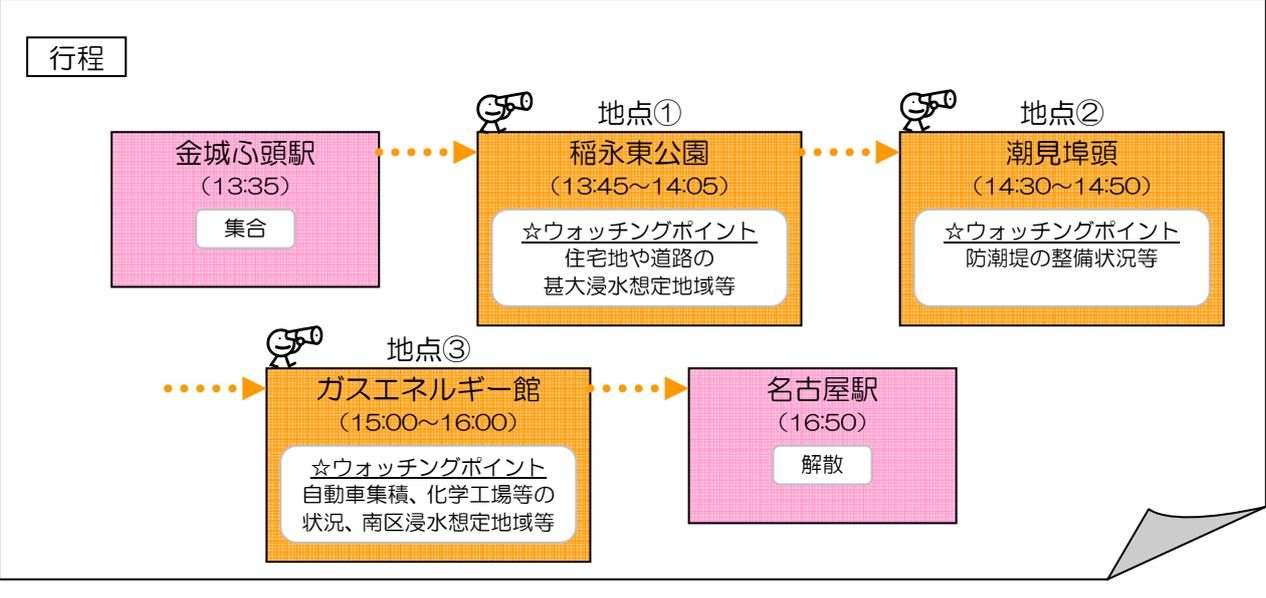


### ■第1回現地ウォッチング参加組織

陸上自衛隊第10師団、東海農政局、中部地方整備局、中部運輸局、愛知県建設部、三重県県土整備部、名古屋市長官舎土木局、弥富市、桑名市、名古屋港管理組合、四日市港管理組合、東邦ガス（株）、（株）NTTドコモ東海、（社）中部経済連合会

# ■第1回現地ウォッチングの概要(その1)

## 1. 視察コースと行程



## ■第1回現地ウォッチングの概要(その2)

### 2. 現地ウォッチングの様子

地点①の稲永東公園では、名古屋市緑政土木局河川部の星課長、中部地方整備局港湾空港部の齋田課長補佐等より、広域避難場所となっている稲永東公園の地盤高や道路の冠水想定などの説明やご意見をいただきました。

地点②の潮見埠頭では、名古屋港管理組合危機管理室の岡田課長より、名古屋港管理組合の防災への取組や高潮被害を防ぐ防潮壁や防潮扉の機能に関する説明等をしていただきました。

地点③のガスエネルギー館では、最上階の展望室にて、名古屋港の臨海工業地域や名古屋市南区の浸水想定地域等を眺望し、浸水想定イメージや今後の高潮対策に関する議論を行いました。



稲永東公園（地点①）でのウォッチングの様子



潮見埠頭（地点②）でのウォッチングの様子

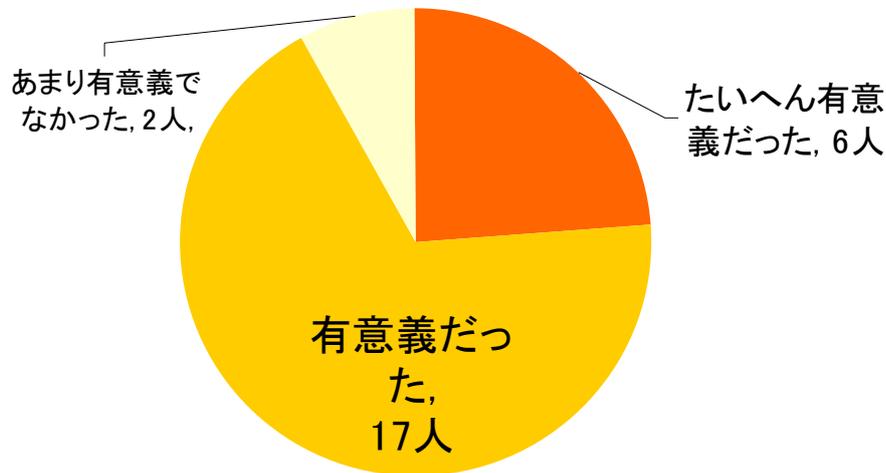


ガスエネルギー館展望室（地点③）でのウォッチングの様子

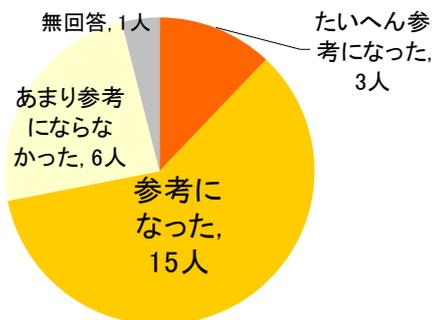
## ■アンケート結果概要

今後の協議会、作業部会の議論の参考とさせて頂くとともに、次回の現地ウォッチングの企画内容を充実させるために、アンケート調査を行いました。(回答者 25 名)

Q. 現地ウォッチングに参加されていかがでしたか？



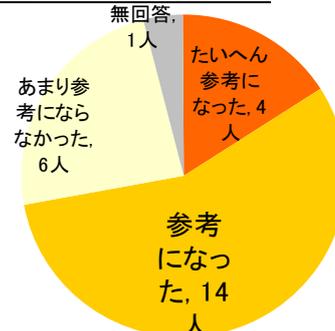
Q. 「稲永東公園」の浸水想定箇所は参考になりましたか？



<具体的意見の一例>

- ・ 浸水の程度が問題であるが、避難場所になっている広い公園が丘として整備されてある所が参考になった。
- ・ 時間的な変化を辿って理解（想定）する必要を感じた（浸水初期に逃げておかなければ公園は活用されない）。
- ・ 浸水何 m がどのくらいなのか、なんとなく分かった。

Q. 「潮見埠頭」の臨港工業地域及び防潮堤は参考になりましたか？



<具体的意見の一例>

- ・ 防潮壁が壁内の油漏れの拡大を防ぐ機能を併せ持っていることは大変勉強になりました。
- ・ 浸水する水量を地区毎に出し、満潮位よりも低い個所の排水をいかに検討するかが必要
- ・ 防潮壁の構造等、前提条件が理解できた。

Q. 「ガスエネルギー館」展望室から見た浸水想定地域の状況（化学工場、製鉄所、自動車の集積、住居、道路等）を視察され、どのような感想を持たれましたか？

<具体的意見の一例>

- ・ 工場地帯と住宅地が隣接しており、水害時における工場特有の被害（ex.資材等の流出）が付近の住宅地にどのような二次被害をもたらすのかを考える必要がある。
- ・ これだけ民家、工場など集積しているところが浸かると、住民避難に人手が取られている中、どれだけの対応ができるか疑問である。